

# 地元住民によるスーパーマーケット立ち上げについて

## —広島県福山市熊野町「熊野ふれあい広場クローバー」と 福山市山野町「キラリやまの」のケース—

小林 正和<sup>1</sup>

### 概要

平成18年に広島県福山市山野町地区にあるJAスーパーマーケット(以下スーパーマーケットをスーパーと称する)がなくなり、その後住民主体のスーパー「キラリやまの」が開店した。さらに平成23年には福山市熊野町にあるJAスーパーもなくなり、住民主体のスーパー「熊野ふれあい広場クローバー」が開店した。

JAスーパーがなくなるというきっかけから住民主体のスーパーができたが、相違点はあるかどうか、開店前準備、活動拠点、施設、利用状況、経営状況等についてそれぞれ調査をしてみた。その結果、似たような経緯であったが、詳細に見ていくと若干違っているところがあった。特に運営主体については、「熊野ふれあい広場クローバー」は自治会連合会と公民館が主体で今後も継続可能だが、「キラリやまの」は個人に頼っており、後継者がいなくなれば将来は継続が難しくなるように見える。さらにどちらも地域住民の高齢化が今後ますます進むと、スーパーそのものの存在が危ういものになる可能性が高いと思われる。

今後同じような過疎地域でスーパー立ち上げが出てくると思われるが、今回の論文がその地域で取り組む参考になればと考える。

キーワード：熊野ふれあい広場クローバー、キラリやまの、住民主体のスーパーマーケット

### はじめに

広島県福山市熊野町にスーパーマーケット(以下スーパーマーケットをスーパーと称する)「熊野ふれあい広場クローバー」(以下「クローバー」と称する)が開店したという情報を聞き、平成18年に福山市山野町のスーパー「キラリやまの」の開店に関わった当時の経緯とどのような相違があるのか調べてみたいと考えた。

過疎地で高齢化率が高い地域にある福山市農業協同組合(JA福山市)が運営しているスーパー(以下「JAスーパー」と称する)が閉店し、その後その跡地に住民主体のスーパーを開店させた

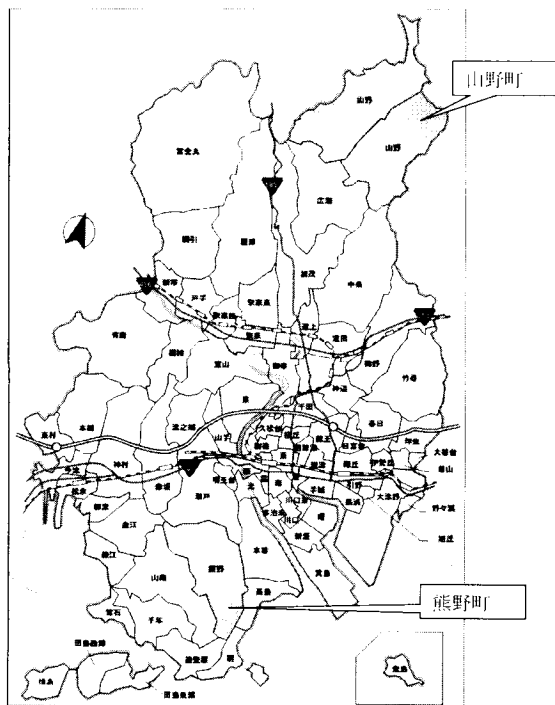
---

<sup>1</sup> 所属：福山大学経済学部 連絡先：084-936-2111

地元住民によるスーパー立ち上げについて―広島県福山市熊野町「クローバー」と福山市山野町「キラリやまの」のケース―  
経緯や具体的な取組内容などを調査、比較してみたい。

まず福山市山野町と熊野町の位置関係を図1の福山市の町図で見てみたい。福山市山野町は福山市の北部、熊野町は南部に位置している。どちらも山間部にある地域である。

図1 福山市の町図



出典：福山市学区地図

[www.megaegg.ne.jp/~jichiren/files/fukuyamagaltukuzu.xls](http://www.megaegg.ne.jp/~jichiren/files/fukuyamagaltukuzu.xls) を参考に著者作成

## 第1章 広島県福山市熊野町熊野の「熊野ふれあい広場クローバー」の立ち上げ

### 1-1 広島県福山市熊野町の現状

広島県福山市熊野町は、福山市の南部に位置し、世帯数 966 戸、人口 2,546 人の町である（平成 25 年 7 月末時点）。65 歳以上の方は 907 人で高齢化率（65 歳以上）35.6%となっており、福山市の高齢化率平均 25.3%より 10 ポイントも高く、高齢者が多く過疎化が進んでいる地域と言える<sup>2</sup>。

この熊野町には、J Aスーパーがあったが、平成 21 年に撤退しており、さらに平成 24 年 3 月には、町内一斉放送の廃止、町内の路線バス（花咲堂線）が廃止となった。そのため町内では今後熊野町はどうなるのだろうかという危機感を覚えたという。

<sup>2</sup> 福山市HP 人口統計 <http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/johokanri/24115.html>

地元住民によるスーパーマーケット立ち上げについて—広島県福山市熊野町「熊野ふれあい広場クローバー」と福山市山野町「キラリやまの」のケース—

## 1-2 「熊野ふれあい広場クローバー」の設立経緯と開店までのスケジュール

このような状況の下、平成23年2月に町内会自治会役員を中心に「ふれあい広場」準備委員会（名称：熊野ふれあい広場）を立ち上げ、JA福山市熊野支店スーパー跡地（281.6m<sup>2</sup>）を活用、「マチかど情報室」などを設置して住民が集うことができるスーパーを作ることとした。住民同士のふれあいやにぎわいの創出、コミュニティの創出等が可能となるサロンの機能を持ったものである。

参加者は、町内会自治会役員や地元ボランティアの会、福山市南部生涯学習センター、公民館、さらには小学校の児童等であり、平成23年4月中旬からは、設立準備会を立ち上げた。この会には8名が参加し、5月中旬には名称を「熊野ふれあい広場クローバー」に決定し、ふれあい広場構想を話し合った。その後地元スーパー「オンリーワン山手店」の協力のもと、仕入れ、販売等のノウハウを学んでいる。さらに福山市の補助金申請（住民参加型施設等整備事業）等を行い、運営資金も獲得することができた。立ち上げ期間は1年弱でじっくりと準備をして立ち上げをすることができている。<sup>3</sup>

表1 「クローバー」の開店までのスケジュール

時期	項目	内容
平成23年		
2月	1日 7日	自治会会長会開會 熊野町の現状・課題の討議（花咲堂のバス路線の廃止、JA福山市による町内放送の廃止） 町内会自治会役員と連携 福山市補助金「住民参加型施設等整備事業」の説明とこれを利用して「ふれあいの場」作りの検討
3月	22日	準備会立上り補助金活用検討 組織、設置場所、内容、名称等の検討
4月	18日	設立準備会発足 ふれあい広場の構想、今後のスケジュール、町民アンケートの実施
5月	18日	第1回設立準備会 名称「クローバー」決定、場所選定、販売品目検討、地産地消の推進
8月	29日	第2回設立準備会 内部外装・電気工事の見積、商品の仕入れ、ふれあい広場構想の打ち合わせ
9月	中旬	住民学習会 熊野町の「いいところ探し・困るところ探し」による町民の意識の確認
10月	6日	第3回設立準備会補助金 申請説明、店内改装（155万円）、電気関係整備（140万円）の説明、仕入れ説明
11月	8日	第4回設立準備会 補助金申請（提案書）の検討、「クローバー」の内容・組織・規約の検討、JA福山市との協議内容
12月	7日	JA福山市との協議 建物賃貸、農協備品の譲渡と不要備品の廃棄（処分費用はJA福山市負担）
平成24年		
1月	13日 24日	オンリーワン山手店との話し合い 卸業者との話し合い 100円ショップワッツとの話し合い 卸業者との話し合い
2月	1日 27日	第5回設立準備会 JA福山市との話し合いの報告、オンリーワン、ワッツとの話し合いの報告 補助金の事業提案書の提出
3月	26日	視察 福山市山野町スーパー「キラリやまの」への視察（7名）
4月	初め 22日	第6回設立準備会 プレゼンテーションへの打合せ、ふれあい広場7月22日オープン決定 補助金「住民参加型施設等整備事業」公開プレゼンテーション（3名参加）
5月	25日	第1回運営委員会 準備会にメンバー追加、経過報告、開店式典の提案、役割分担
6月	11日 25日 29日	第2回運営委員会 営業に関わる各署の許可申請、電気工事・看板、商品の仕入れ等の購入、研修 第3回運営委員会 開店日について休日の設定、各部署の進捗状況、緊急課題、オープニング等の協議 29日 地産品出荷予定者の説明会
7月	3日 7日 11日 20日 21日 22日	臨時運営委員会 開店準備 ふれあい広場開店に伴うオープニング式典の準備協力要請 臨時運営委員会 開店準備 第4回運営委員会 開店準備 クローバー開店準備 開店準備 ふれあい広場開店式典
12月		・NHK取材：平成25年3月放映

出典：福山市南部生涯学習センター（2013）、「熊野ふれあい広場「クローバー」設立の流れ」をもとに著者作成

<sup>3</sup> 参考：熊野町公民館館長インタビュー並びに福山市南部生涯学習センター（2013）、「熊野ふれあい広場「クローバー」設立の流れ」、福山市南部生涯学習センター（2013）、「施設立上げまでの経緯について等」、福山市南部生涯学習センター（2013）、「ピンチをチャンスに変える地域づくり 挑戦！わが町の取り組み」

地元住民によるスーパー立ち上げについて一広島県福山市熊野町「クローバー」と福山市山野町「キラリやまの」のケース

### 1-3 「クローバー」の運営状況

「クローバー」の規模は、施設面積 381.6m<sup>2</sup> で、その内「ふれあい広場」は約 45m<sup>2</sup> である。店舗時間は午前 10 時から午後 6 時、定休日は毎週日曜日、盆が 8 月 15 日と 16 日、正月が 12 月 31 日から 1 月 5 日までである。

集客方法は、イベント開催、町内会への回覧、地元農家の特売品の設置などを行っている。さらに平成 25 年 3 月からは、高齢者対象に注文を店頭で受付し、配達を行う事業を新規に始めている。

町民の集う場としての「ふれあい広場」には、高齢者対象講座による町民の作った書や絵の作品展示、各種情報の掲示等を行って、サロンの要素を導入している。

運営は、熊野公民館が行っており、委員会の開催やイベント・講座の企画、広報、関係機関との連携窓口としている。熊野公民館館長佐藤修氏にインタビューを行い<sup>4</sup>、経緯を詳しく教えていただいた。

特に「高齢者おでかけ支援事業」として、福山市と地域が、高齢者が買い物をする際の支援ができる活動を行っている。対象者は 75 歳以上の高齢者で、他に交通機関がなく自立で活動できる者で、運転手はボランティア、使用車両は福山市からのリース車両（7 人乗り）で年間の経費 65 万円ほどを補助してもらっている。

平成 25 年度の利用者は約 46,700 人程（月平均約 3,900 人）で、売上は 43 百万円（月平均 360 万円）となっている。利用者の範囲は熊野町、沼隈町、瀬戸町が主である。商品の調達は、地産品は地元の農家からの直接搬入、食材は卸業者から、日用品は 100 円ショップ（株式会社ワッツ）からとなっている<sup>5</sup>。

運営方法は、理事会（理事長を筆頭に 15 人の理事）とスタッフ会（30 人）を定期的で開催し、運営を話し合っている。全員無給で働いており、税理士やレジ購入業者、さらには仕入れ業者等の専門家からのアドバイスをもらっているという。

<sup>4</sup> インタビュー 熊野公民館館長「佐藤修氏」平成 26 年 4 月 11 日、6 月 10 日、9 月 2 日

<sup>5</sup> 参考：熊野町公民館館長インタビュー並びに福山市南部生涯学習センター（2013）、「熊野ふれあい広場「クローバー」設立の流れ」、福山市南部生涯学習センター（2013）、「施設立上げまでの経緯について等」、福山市南部生涯学習センター（2013）、「ピンチをチャンスに変える地域づくり 挑戦！わが町の取り組み」

図2 「クローバー」外観



出典：著者撮影

#### 1-4 課題と今後の取り組み

課題は下記のように多く挙げられる。

売上では、月平均売上は360万円、採算ラインの350万円ぎりぎりとなっているため、非常に厳しい運営状況であり、現在運営に携わっている人は、無給で働いてもらっているという。

今後の取り組み内容については、世代間の交流を図り、「道の駅」的機能を持った施設へ拡充、さらには災害時の備蓄機能、情報発信事業、宅配サービスの充実等を考えている。

特に、専門の経理担当者がいないため税理士事務所をお願いしていることや、スタッフの高齢化（平均年齢68歳）による後継者の育成を図るため、地元の専門知識を持つ若い方に協力をお願いしているということである。

今後の取り組みについては、来店者のリピーターになってもらうための魅力づくり、地産品の安定供給並びに熊野ならではの特色づくり、社会福祉法人「ゼノ」と協力してクッキー等の食品の仕入れ等を検討している。

表2 「クローバー」の運営状況

		内容	
1 開店前準備	開店期日	平成24年7月	
	準備期間	13か月	
	きっかけ	JA福山市熊野支店の閉鎖	
	準備団体	福山市熊野町自治会連合会、熊野町公民館	
	補助金	「住民参加型施設等整備事業」 「高齢者おでかけ支援事業」65万円/年間	
	他の助成	JA福山市による備品無償貸与と不要備品廃棄費用はJA負担 駐車場の借用は無料	
2 活動拠点・施設	施設の規模	施設面積	381.6m <sup>2</sup>
	利用方法	自由・おでかけ支援の中継点 店舗の時間 午前10時～午後6時 定休日：毎週日曜日、盆（8/15,16）、正月（12/31～1/5）	
	店舗の集客確保	高齢者への宅配：注文は店頭受付 車による広報・宣伝活動、町内会への回覧 節目でのイベント開催 地元農家の地産品の販売	
	ふれあい広場	情報伝達（掲示・展示）、地域住民対象の講座開催 おでかけ支援車の中継場所 店舗内に「いきいきサロン」の開設	
	事務局	熊野公民館 役割：運営委員会開催、イベント等の企画、関係機関との窓口	
	3 利用者特性と利用状況	売上等	売上
ふれあい広場		利用者	日平均利用者数 平均10人 平均滞在時間 30分前後
4 施設の運営・経営状況	運営状況	管理方法	理事会とスタッフ会を定期的開催
		管理者	理事長を筆頭に15人の理事 スタッフ30人 無給
		専門家	経理：税理士の指導 レジ部門：レジ購入業者からの指導 商品の陳列、仕入れ：業者からの指導
	商品の調達方法	地産品	地元の農家から直接搬入
	食材	卸業者からの仕入れ	
	日用品	100円ショップ（買取）、卸業者からの仕入れ	
	活動・運営資金	自転車操業	
5 課題	経営・資金繰り	余裕のある資金繰りが必要 ボランティアの補償（傷害保険、通勤費、給料等）の確保 固定経費 電力費用等273千円 サロンの運営、町民の要望と経営のずれ、専門の経理担当者不在	
		商品	来店者への魅力づくり（リピーター） 地産品の安定供給（充実）及び熊野ならではの特色づくり 廃棄処分への対策
	後継者	スタッフが平均年齢69歳で、後継者の育成必要	

出典：福山市南部生涯学習センター（2013）、「施設立上げまでの経緯について等」をもとに著作作成

## 第2章 広島県福山市山野町の「キラリやまの」のケース

### 2-1 広島県福山市山野町の現状

広島県福山市山野町は、福山市の北部に位置し、世帯数 349 戸、人口 741 人の町である（平成 25 年 7 月末時点）。65 歳以上の方は 360 人で高齢化率（65 歳以上）は 48.6%となっており、福山市熊野町と同じく高齢者が多く、過疎化が進んでいる地域と言える。

### 2-2 「キラリやまの」の設立経緯と開店までのスケジュール

福山市山野地区の住民は、平成 18 年 2 月に J A 福山市山野支店が廃止となることを聞き、この山野町にはスーパーが 1 軒もなく隣の加茂町まで約 10 km も離れているため、買い物するのにかなり不便だと危機感を募らせた。

そこで、平成 18 年 3 月には J A 女性部役員が中心となってボランティアで店の運営をしようと立ち上がった。その後 5 月下旬には福山市の補助金「福山市提案型まちづくり事業」と「ふくやまの魅力づくり事業」に応募して、7 月には 100 万円の補助金を獲得する。

その間、福山市主催の起業セミナーの受講、J A 山野支店との協議、商品確保のための業者との協議、店舗の改築、補助金によるレジの購入、チラシの作成等多くの作業を行い、8 月 6 日にはスーパー「キラリやまの」（以下「キラリやまの」と称する）を開店をした。準備期間は 5 か月と非常に短い期間で立ち上げており、かなり大変だったということである。

当時、筆者は福山市の起業セミナーの講師をしており、J A 女性部役員の方達が受講生となっていたため全面的に協力を行ったが、非常に危機感を持って開店準備に取り掛かっていた。

地元住民によるスーパー立ち上げについて—広島県福山市熊野町「クローバー」と福山市山野町「キラリやまの」のケース—

表3 「キラリやまの」の開店までのスケジュール

時期 平成18年	項目	内容
2月		平成18年3月末で、JA山野支店の食料店舗（グリーン山野）の廃止が決定したことを知る
3月	26日 31日	会合 JAと住民のグリーン山野店の店舗継続について協議 グリーン山野の食料店舗が閉店
4月	24日 25日	会合 会合 女性部役員他が集まり存続について会合、JAより店舗の借用する承諾を得る 会長宅
5月	14日 16日 26日 29日 31日	会合 会合 会合 会合 会合 農事センター JA山野支店と女性部員等が集合。JA女性部を中心に、店の運営をボランティアで立ち上げ 福山市提案型まちづくり事業「ふくやまの魅力づくり事業」の補助金について相談する レジ導入について 補助金申請等について
6月	初旬(5回) 中旬(4回) 下旬(7回)	会合等 会合等 会合等 グリーン市場にて研修、今後の取り組みについて、福山市主催の起業セミナー申し込み 福山市各所（JA福山市等）へ訪問、約50人が協力者として登録、備品等の打ち合わせ 食品衛生責任者養成講習会受講、起業セミナー受講（8人）、今後の打合せ、セミナー受講 26日：市民部協同のまちづくり課より1次審査通過の結果を受け取る
7月	初旬(7回) 中旬(9回) 下旬(5回)	会合等 会合等 会合等 5日：「ふくやまの魅力づくり事業」の2次審査会（公開プレゼンテーション） 福山税務署訪問指導・見学、セミナー受講、各係配置決め バックヤードの片づけ、各係配置決め、店舗棚もらい受け、店舗レイアウト、食器等購入 店舗棚組・掃除、農産物出荷関係者との打ち合わせ 厨房用品搬入により店舗完成、町内会長を通じて住民に協賛金を呼びかける 加工品出荷者、総業検討 商品陳列開始、開店チラシ配布 レジスター練習、精肉注文等 食品衛生責任者の資格を取得する、保険所の指導を受ける、営業許可を取得する 店舗を「キラリやまの」と命名する
8月	1～5日 6日	会合等 開店 農産物出荷者との協議、開店に向けての準備、精肉陳列 開店

出典：門田美枝子（2006）、「キラリやまの」の開店までのスケジュール」をもとに著者作成

### 2-3 「キラリやまの」の運営状況

「キラリやまの」の規模は施設面積75㎡で、熊野町の「クローバー」にある「ふれあい広場」はない。店舗時間は午前9時から午後6時、定休日は毎週土・日曜日、盆が8月14日から17日まで、正月が12月29日から1月10日までとなっている。

集客方法は、地元農家の特売品の設置や高齢者への宅配などを行っている。さらにスタッフによる惣菜、弁当販売は、近隣からの注文が多く、非常に好評である。

事務局は、「キラリやまの」の事務室に置いてあり、販売は数名が当番制で担当している。

また、熊野町と同じく「高齢者おでかけ支援事業」として、福山市と地域が、高齢者が買い物をする際の支援ができる活動を行っている。

平成25年度の利用者は約1,500人程（月平均約125人）で、売上は25百万円（月平均210万円）となっており、葬儀関係や惣菜、弁当の販売がかなり多いようである。開店後の平成18年12月末での売り上げは、11.8百万円で利益は280万円となっていた。当時はJA福山市が家賃1年間と電気代半年分月10万円を負担していたが、現在では電気代が2年前から6万円となっている。また税理士費用は2年前までは無料であったが、税理士が死去されたため、現在は別の税理士と年36万円で顧問契約をしているという。

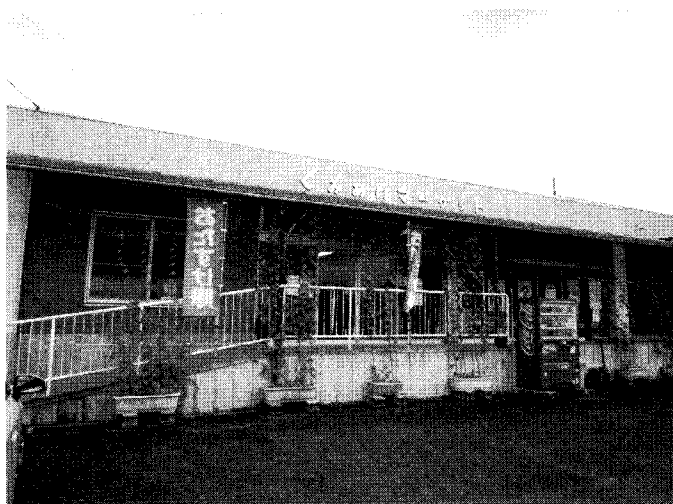


地元住民によるスーパーマーケット立ち上げについて—広島県福山市熊野町「熊野ふれあい広場クローバー」と福山市山野町「キラリやまの」のケース—

利用者の範囲は山野町が主である。商品の調達、地産品は地元の農家からの直接搬入、食材や日用品は卸業者からとなっている。

運営方法は、地元女性会のボランティア中心で、管理者は門田美枝子氏以下5人、スタッフは25名である。平均年齢は68歳で、時給300円で働いている。レジ購入業者や仕入れ業者等の専門家からのアドバイスをもらっている。

図3 「キラリやまの」外観



出典：著者撮影

#### 2-4 課題と今後の取り組み

課題は以下のようなものである。

「キラリやまの」は設立後8年以上経っているが、当時と比べて地域の高齢化が進み、ここ5年間で120人ほど亡くなったという。そのため売上がかなり減少したとのことであった。

またスタッフは時給300円で運営を手伝ってもらっているが、厳しい状況である。「JA福山市の援助でなんとかもっているようなものです」と言っていた。

今後の取り組みについては、惣菜、弁当は非常に好評で、今後も売り上げを伸ばしたいと考えているが、人手が足らず、厳しいということであった。

地元住民によるスーパー立ち上げについて—広島県福山市熊野町「クローバー」と福山市山野町「キラリやまの」のケース—

表4 「キラリやまの」の運営状況

		内容	
1 開店前準備	閉店期日	平成18年8月	
	準備期間	5か月	
	きっかけ	J A福山市山野支店スーパーの閉鎖	
	準備団体	J A福山市山野支店女性部	
	補助金	「高齢者おでかけ支援事業」65万円/年間 (当初、「福山市提案型まちづくり事業」100万円/1回 「ふくやまの魅力づくり事業」)	
	他の助成	J A福山市による家賃無料と電気代6万円(年間:2年前から) (当初、J A福山市による家賃1年間と電気代半年分月10万円無料) 駐車場の借用は無料 税理士費用は36万円/年・・2年前まで無料(税理士が死去)	
2 活動拠点 ・施設	施設の規模	施設面積	75m <sup>2</sup>
	利用方法	店舗の時間	平日:9時～16時、土・日・祭り:休み (最初は平日9時～18時、土・日は8時～12時)
		定休日	なし(正月12/29～1/10)、盆(8/14～17) (最初は毎週水曜日)
	店舗の集客確保	高齢者への宅配:注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売(好評で近隣から注文多い) 地元農家の地産品の販売	
	ふれあい広場	なし	
事務局	「キラリやまの」の事務室		
3 利用者特性 と利用状況	売上等	売上	1年間:25,000千円(月平均2,100千円) (以前は50,000千円(月4,200千円程度))
		レジ通過人数	1年間:1,500人(月平均125人程度)
		利用者の範囲	山野町
4 施設の運営 ・経営状況	運営状況	管理方法	地元女性会のボランティア
		管理者	門田美枝子代表以下5人(カギ当番)
		スタッフ	スタッフ25人(以前は40人) 300円/時間 平均年齢68歳、全員女性
		専門家(当初)	レジ部門:レジ購入業者からの指導 商品の陳列、仕入れ:業者からの指導 ※現在は、自分達で実施、視察等も行う
	商品の調達方法	地産品	地元の農家から直接搬入
	食材	卸業者からの仕入れ	
	日用品	卸業者からの仕入れ	
活動・運営資金	自転車操業		
5 課題	資金繰り	スタッフは報酬300円/時でもらっているが、厳しい。 J A福山市の援助でなんとかしているようなものである。	
	商品	惣菜、弁当は非常に好評で売上を伸ばしたいが、人手が足りない	
	経営、後継者	高齢で後継者を見つけているが、引き受けると言っていない。 ここ5年間で、よく利用する方が120人程度亡くなり、売上減少。	

出典:門田美枝子氏インタビューをもとに著者作成

### 第3章 「クローバー」と「キラリやまの」の比較

#### 3-1 「クローバー」と「キラリやまの」の比較について

福山市熊野町「クローバー」と福山市「キラリやまの」の比較をしてみたが、下記のようになっている。

##### (1) 開店前準備

きっかけは、どちらも過疎地で高齢化率が高いため、J A福山市の店舗の閉鎖により買い物難

地元住民によるスーパーマーケット立ち上げについて一広島県福山市熊野町「熊野ふれあい広場クローバー」と福山市山野町「キラリやまの」のケース

民が発生することにより、スーパーを開店しようということになったものである。開店期日は、「クローバー」は平成 24 年 7 月、「キラリやまの」は平成 18 年 2 月となっており、「クローバー」は「キラリやまの」の 6 年後に開店をしている。準備期間は「クローバー」は 13 か月と長くかけることができたが、「キラリやまの」は 5 か月とかなり大変だったようである。

準備団体は、「キラリやまの」は J A 福山市の女性部が主体であったが、「クローバー」は地元の自治会連合会等である。「キラリやまの」は男性の理解を得ることが難しく、スーパーの運営経験もないまま、主婦が実施主体となったものであるが、「クローバー」は自治会連合会が主体で、公民館や小学校など地域全体の協力を得て実施している。「クローバー」のほうが地域全体で支えられているものとする。

補助金はどちらも福山市から得ており、スーパーを運営していくためには必要なものである。さらに J A 福山市からかなりの補助を受けているが、地域住民のために J A 福山市は補助をしているものとする。

## (2) 活動拠点・施設

敷地面積は、「クローバー」のほうが「キラリやまの」より 5 倍も大きく、そのために地元住民のための「いきいきサロン」を店舗の中に設けて、憩いの場をつくることができている。

店舗の開店時間は、どちらも同じようであるが、「クローバー」のほうが若干休みが少ないようである。

## (3) 利用状況

販売、売上状況は、どちらも地元農家の地産品の販売をしていること、さらに高齢者向けに宅配業務を行い、高齢者への利便性を追求していることは同じであるが、「キラリやまの」の方が、葬儀関係や惣菜、弁当の販売がかなり多く、貢献している。しかし今後地域の人や常連客、さらにはスタッフの減少などで売上を伸ばすのは厳しいようである。

## (4) 運営状況

スタッフ人数はどちらも 30 人から 40 人と同じであるが、「クローバー」は無給、「キラリやまの」は時給 300 円で仕事をしている。今後両スーパーとも、できるだけ早い時期に報酬が多く出るようにしなければいけないと言っていた。

後継者はどちらも高齢となっている。しかし「クローバー」の方は自治会連合会や公民館で支えているため、後継者は今後も継続できるが、「キラリやまの」の方は代表である門田氏の後が現状ではいなく、さらにスタッフも徐々に少なくなっているという。今後はかなり厳しい状況のようである。

地元住民によるスーパー立ち上げについて—広島県福山市熊野町「クローバー」と福山市山野町「キラリやまの」のケース—

表5 「クローバー」と「キラリやまの」の運営状況等の比較

		クローバー	キラリやまの
1 開店前準備	開店期日	平成24年7月	平成18年8月
	準備期間	13か月	5か月
	きっかけ	J.A福山市熊野支店の閉鎖	J.A福山市山野支店スーパーの閉鎖
	準備団体	福山市熊野町自治会連合会、熊野町公民館	J.A福山市山野支店女性部
	補助金	住民参加型施設等整備事業 高齢者おでかけ支援事業 65万円/年間	高齢者おでかけ支援事業 65万円/年間 (当初、福山市提案型まちづくり事業：100万円/回 ふくやまの魅力づくり事業)
他の助成	J.A福山市による備品無償貸付と不要備品廃棄費用はJ.A負担 駐車場の借用は無料	J.A福山市による家賃無料と電気代6万円(6年間無料、2年前から) (当初、J.A福山市による家賃1年間と電気代半年分10万円無料) 駐車場の借用は無料 税理士費用は36万円/年、2年前まで無料(税理士が死去)	
2 活動拠点・施設	施設の規模	施設面積 381.6㎡	施設面積 75㎡
	利用方法	店舗の時間 午前10時～午後6時 定休日：毎週日曜日、盆(8/15,16)、正月(12/31～1/5)	店舗の時間 平日：9時～16時、土・日・祭り：休み (最初は平日9時～18時、土・日は8時～12時) 定休日 なし(毎月12/29～1/10)、盆(8/14～17) (最初は毎週水曜日)
	店舗の集客確保	高齢者への宅配・注文は店頭受付 中による広報・宣伝活動、町内会への回覧 節目でのイベント開催 地元農家の地産品の販売	高齢者への宅配・注文は電話受付 スタッフによる惣菜、弁当販売(好評で近隣から注文多い) 地元農家の地産品の販売
	ふれあい広場	情報伝達(掲示・展示)、地域住民対象の講座開催 おでかけ支援車の中継場所 店舗内に「いきいきせろし」の開設	なし
	事務局	熊野公民館 役割：運営委員会開催、イベント等の企画、関係機関との窓口	「キラリやまの」の事務室 役割：店舗運営
3 利用者特性と利用状況	売上等	売上 1年間：43,481千円(月平均3,623千円) レジ通過人数 1年間：46,695人(月平均3,891人) 利用者の範囲 熊野町、沼隈町、瀬戸町、旧市内	売上 1年間：25,000千円(月平均2,100千円) (以前は50,000千円(月4,200千円程度)) レジ通過人数 1年間：1,500人(月平均125人程度) 利用者の範囲 山野町
	ふれあい広場	利用者 日平均利用者数 平均10人 平均滞在時間 30分前後	なし
	施設の利用状況	管理方法 理事会とスタッフ会を定期的開催 管理者 理事長を筆頭に15人の理事 スタッフ スタッフ30人、無給 専門家 税理士：税理士の指導 レジ部門：レジ購入業者からの指導 商品の陳列、仕入れ：業者からの指導	管理方法 地元女性会のボランティア 管理者 門田美枝子代表以下5人(カネ当番) スタッフ スタッフ25人(以前は40人) 300円/時間 平均年齢48歳、全員女性 専門家(当初) レジ部門：レジ購入業者からの指導 商品の陳列、仕入れ：業者からの指導 ※現在は、自分達で実施、観察等も行う
4 施設の運営・経営状況	商品の調達方法	地産品 地元の農家から直接搬入 食材 卸業者からの仕入れ 日用品 100円ショップ(買取)、卸業者からの仕入れ	地産品 地元の農家から直接搬入 食材 卸業者からの仕入れ 日用品 卸業者からの仕入れ
	活動・運営資金	自転車操業	自転車操業
	経営・資金繰り	余裕のある資金繰りが必要 ボランティアの補償(傷害保険、通勤費、給料等)の確保 固定経費 電気費用等273千円 ゼロの運営、町民要望と経営のずれ、専門の経理担当者不在	スタッフは報酬300円/時でもらっているが、厳しい。 J.A福山市の援助でなんとかしているようなものである
	商品	来店者への魅力づくり(リピーター) 地産品の安定供給(売上)及び熊野ならではの特色づくり 廃棄処分への対策	惣菜、弁当は非常に好評で売上を伸ばしたいが、人手が足りない
後継者	スタッフが平均年齢40歳で、後継者の育成必要	高齢で後継者を見つけているが、引き受けてと言っていない。 ここ5年間で、よく利用する方が1/20人程度となり、売上減少。	

出典：福山市南部生涯学習センター(2013)、「施設立上げまでの経緯について等」と門田美枝子氏インタビューをもとに著作作成

### 3-2 地元住民主体のスーパー取り組みについて

広島県福山市では、地元住民主体のスーパー取り組みはまだ2つのケースしかないが、過疎地で高齢化率の高い地域では、スーパーがなくなった場合、日常の買い物に非常に困ることとなる。

今回の2つのケースで見たところ、地元住民からの取り組み意思により、店員はボランティアで、補助金を受けながら活動していることが分かった。利益が伴わない地域でスーパーが撤退をした場所に、新たにスーパーを開設しているため、利益よりもまずは住民の利便性を追求しているわけである。しかし、このまま利益を追求せずにボランティアで継続することは、地域住民の熱意と継続性に問題が生じることになるかもしれない。

さらに地域住民の高齢化が今後ますます進むと、スーパーそのものの存在が危ういものになる可能性が高いと思われる。

### おわりに

今回の2つのスーパーの取り組み内容を比較した結果、開店前の準備段階、活動拠点、利用状況、経営状況等で比較検討した結果、経緯は同じようでありながら、違う点も多くあることがよく分かった。

地域の中でスーパーがなくなり、買い物をすることができなくなるという危機感から地元住民主体のスーパーができたが、今後もこのような取り組みは増加するものと思われる。そのため今回の論文はそういった地域で取り組む参考になればと考える。

### 引用・参考文献一覧表

- ・福山市南部生涯学習センター（2013）、「熊野ふれあい広場「クローバー」設立の流れ」
- ・福山市南部生涯学習センター（2013）、「施設立上げまでの経緯について等」
- ・福山市南部生涯学習センター（2013）、「ピンチをチャンスに変える地域づくり 挑戦！わが町の取り組み」
- ・小林正和（2007）、「住民ボランティアによるスーパー立ち上げから学ぶ地域活性化の取り組み—「キラリやまの」開店のケース—」『福山大学経済学論集』第32巻第1号、pp. 139-153
- ・門田美枝子（2006）、「キラリやまの」の開店までのスケジュール」
- ・福山市IIP 人口統計 <http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/johokanri/24115.html>
- ・福山市学区地図 [www.megaegg.ne.jp/~jichiren/files/fukuyamagaltukuzu.xls](http://www.megaegg.ne.jp/~jichiren/files/fukuyamagaltukuzu.xls)  
を参考に著者作成
- ・インタビュー 熊野公民館館長「佐藤修」氏 平成26年4月11日、6月10日、9月2日
- ・インタビュー キラリ山野代表者「門田美枝子」氏 平成26年7月24日
- ・「クローバー」外観写真 著者撮影 平成26年6月10日
- ・「キラリやまの」外観写真 著者撮影 平成26年7月24日